

栃木県における情報教育の現状と課題

○阿久津由香, 飯塚由美, 佐々木和也, 清水裕子 (宇都宮大)

【目的】近年の情報通信技術の発展にともない、学校教育の中にも、情報化に対応した取り組みが進められるようになってきた。授業においては、子供たちに高度情報化社会における情報の送受信能力を身につけさせることが、今後さらに重要な課題となっている。また、子供たちの意欲を高めるために、授業に効果的にマルチメディアの特性を生かすことも必要である。本研究では、インターネットを利用したマルチメディアを家庭科教育に利用するために、栃木県下の小・中学校の情報教育の現状、利用の仕方、問題点等の調査を行い、情報教育の基礎資料を得ることを目的とした。

【方法】1. アンケート調査により、栃木県内の小・中学校の教員の意識調査を行った。

2. 栃木県のマルチメディア指定校等を訪問し、担当者に実践を進めた際の問題点や生徒の学習効果等について聞き取り調査を行った。

3. 作成した家庭科衣生活領域におけるHTMLソフトの授業への利用を検討した。

【結果】栃木県においても、コンピュータが設置されているにもかかわらず、インターネットの接続率はまだ低い現状にある。一方、情報教育が進んでいる学校では、インターネットを利用した情報収集活動や交流活動を通して教育効果を高め、子供たちの意欲を向上させている。しかしながら、コンピュータは手段の一つであること、操作そのものではなく授業のねらいを達成するために効果的に使えるよう心がけること、バーチャルなものは限界があるため実体験も重視すること等が留意点として取り上げられていた。これらの意見を参考に、HTMLソフトを利用した実践授業への取り組みを検討していきたい。